

議会と首長の関係

都市圏総局 前田 隆夫



自治体の議会と首長は「車の両輪」に例えられる。確かに地域を引っ張る存在だが、車軸でつながった両輪はいつも同じ方向に、同じスピードで進む。議会と首長の関係はそうではないだろう。

議会は首長が編成、執行する予算を点検し、改めるべき点は改める。不足があれば補う。あらぬ方へ向かえばブレーキをかける。是々非々であるはずだが、現状はどうか。

首長が提出した議案は100%近い高率で、原案通りに可決される。「与党」を名乗る議員や会派は根回しを潤滑油にして、首長と仲良しこよし。元鳥取県知事の片山善博、早稲田大教授は、この近すぎる関係を「一輪車」と批判する。両者の間には異論を挟む余地がない。

話題の東京都議選にも一輪車の懸念がある。小池百合子知事が代表を務める地域政党「都民ファーストの会」の幹部は言う。「選挙の争点は小池都政にイエスカノーか」。知事のイエスマンが多数を占める議会に、都政のチェック機能が働くだろうか。

福岡市議会にも「市長を支える」と宣言して結成された会派がある。高島宗一郎市長

議案の修正や否決は当たり前

は自分の方針に反対した最大会派に「野党になるといふことなのか」と発言し、不満をあらわにした。こんな考えを持つ議員と市長に、是々非々の議論ができるだろうか。

「でもね…」と九州のある市議はぼやく。「市長を批判すると、幹部職員にまで反市長のレッテルを貼られ、情報ももらえなくなるんです」

間違った両輪、おかしな一輪車をなくすには、原理原則に立ち返るしかない。

片山氏は知事に就任して初めての議会(1999年5月)で、議員に異例のメッセージを送った。鳥取県議会はこの後、知事提出議案の修正や否決が珍しくなくなる。

「私が議会にお諮りする案件について、県民の意思が他のところにあるとすれば、修正を加えていただきたい。お諮りしない案件についても、県民の意向を踏まえて必要があれば、議員の発議により、条例の制定などに取り組んでいただくことを望みます。遠慮は無用ですし、そもそも、これがわが国の地方自治制度が想定している議会本来の姿でございます」(要約)

議決の判断基準は住民。首長に近いかどうかではない。

「議会は独裁防ぐとりで

福岡市議会特別委

金井東大教授が参考人意見

福岡市議会の議会改革調査特別委員会が1日開かれ、懸案となっている「議会基本条例」をテーマに参考人の金井利之・東京大教授(自治体行政学)から意見を聞いた。

金井教授は、大統領と同じく直接選挙で選ばれる自治体首長は「民意」を背景に独裁的な存在になりやすい本質を持っており、近年はその傾向が強まってきていると述べた。

その上で「議会は、独裁の危険に対抗する『大きなとりで』になる。首長の独走を抑えることを基本線とし、議会基本条例も含めて議論してほしい」「議会をいつでも機動的に開き、首長と執行部を出席させて質問できるようにすることが最も大事だ」と話した。

特別委は来年1月15日、法政大の広瀬克哉教授(行政学)からもヒアリングする。

議会基本条例は、議会の責務を明確にしたり、透明性を高めたりする規定を自主的に定めるもので、全国20政令市では福岡市や熊本市など4市が制定していない。(小野浩志)